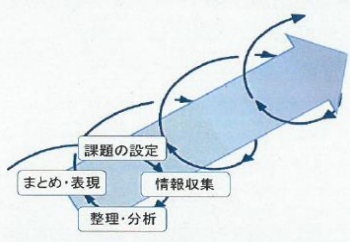


令和3年度「確かな学力」を育成するための授業改善シート

児童生徒の「確かな学力」の育成を推進するために、目指す資質・能力を明確にし、以下の視点を大切にしながら、日常の授業づくりに取り組みましょう。



「課題の設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という一連の探究活動のプロセスに、児童生徒が主体的・協働的に参加することを通して、知識・技能と学び方をバランスよく習得させながら、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等や主体的に学習に取り組む態度を育成することを目指します。

目指す資質・能力の育成につながる授業づくりのポイント

- ☆ 「学校として育成を目指す資質・能力」についての共通理解を図り、各教科等で育成を目指す資質・能力をより具体的に想定し、児童生徒と共有する。
- ☆ 単元を通して育成を目指す資質・能力に照らして評価規準を設定し、評価場面を精選して位置付けることにより、教師の指導改善と児童生徒の学習改善に生かす。
- ☆ 個に応じた学習課題や学習活動に取り組む機会（個別最適な学び）と、多様な他者と協働した探究的な学び合い（協働的な学び）を大切にし、資質・能力の三つの柱をバランスよく育成する。
- ☆ 教材・教具や学習ツールの一つとして ICT を積極的に活用することにより、必要な情報を取り出したり、分かりやすく整理したりするなどの情報活用能力を育む。

質の高い学びにつながる「課題の設定」

- 児童生徒が、自ら既習の内容を想起し、**各教科特有の見方・考え方を働かせながら**、見通しをもって取り組むことができる学習課題を設定する。
- 児童生徒の**課題意識を醸成**するために、生活や学習の中で**自ら気付いたことや多様な「問い」**を大切に学習課題を設定する。

思考の深まりにつながる「学び合いの充実」

- 児童生徒が、自ら目的をもって課題解決のための情報を集め、**各教科特有の見方・考え方を働かせながら**、互いの考えを**関連付けたり、吟味・検討**したりする学習過程の充実を図る。
- 学び合いの中に、**自己選択**や**自己決定**の場を位置付ける。
- **考えをより確かなものにする**ために、他者の考えを取り入れながら自分の考えを再構築したり、まとめたりする時間を保障する。



学びの自覚と次の学びにつながる「まとめ・振り返りの充実」

- 学習課題に即したまとめにおいて、児童生徒が、**各教科特有の見方・考え方を働かせながら**、**自ら考えを表現**することを大切にする。
- 児童生徒が、単元を通して**自分の成長や変容を自覚**することができるように、振り返りの場面を**単元の中で意図的・計画的に**設定する。
- 学んだことや気づきを**次の学びや家庭学習につなげていく**ことができるように、児童生徒の振り返りを**価値付ける**。